



レスキューロボットコンテスト2026 ご協賛のお願い

阪神・淡路大震災の教訓を未来へ

技術を学び、人と語らい、災害に強い世の中をつくる

1995年、がれきの下で助けを求める声に、技術は届きませんでした。その悔しさと教訓を未来につなぐため、2000年に始まったのが、「レスキューロボットコンテスト（レスコン）」です。

これは単なるロボット競技ではありません。「やさしさ」という概念を工学に組み込み、次世代の防災・減災技術とそれを支える「人」を育てるプロジェクトです。

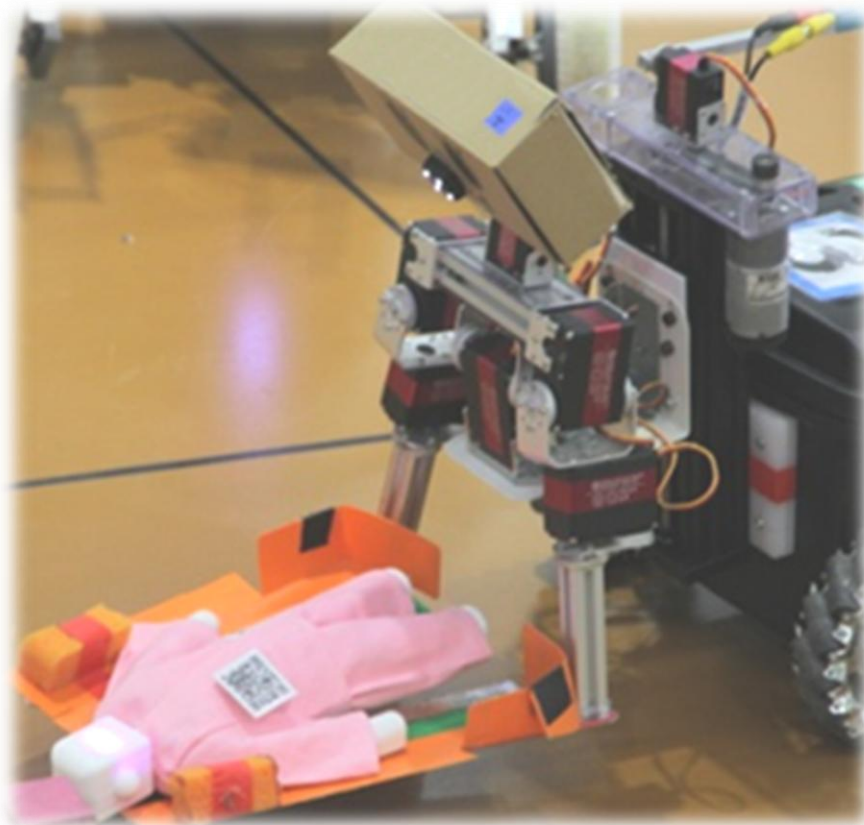
阪神・淡路大震災から31年。災害に強い社会の実現につながるレスコンの継続的な開催のために、格別のご支援をお願い申し上げます。

レスコン2026 競技会本選

日程：2026年8月8日（土）・9日（日）

場所：しあわせの村 体育館（神戸市北区）

URL: <https://www.rescue-robot-contest.org/>



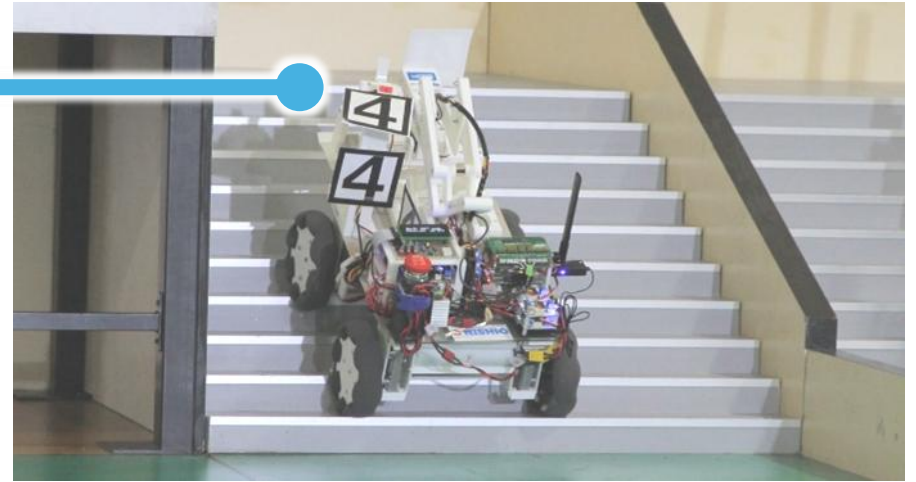
レスキューロボットコンテスト実行委員会・
一般社団法人レスキューロボットコンテスト

2026.2.16版

「戦い」ではなく「救助」



現場が見えないコントロールルーム



1/4スケールのテストフィールド

見えないロボットを 「遠隔操縦」

参加者は壁に隔てられ、現場を直接見ることはできません。搭載カメラの映像だけを頼りに、ロボットを操縦する技術やアイデアが求められます。

要救助者人形 「ダミヤン」

助けるのは「苦痛（圧力や振動）」を感じるセンサーを内蔵した人形です。速さだけでなく「どれだけやさしく救助できたか」がポイントとして評価されます。



複数ロボットの 「チームワーク」

異なる条件の部屋に要救助者人形が3体。複数のロボットが分担・協力して迅速な救助を行います。人間側のチームワークも重要です。



未来のエンジニアと つながる、確かなCSR

情熱ある人材の宝庫

参加者は工学・情報・ロボティクスを
学ぶ大学・高専生を中心とした
約100名の精鋭たち。

複雑な課題解決に挑む、即戦力
候補の学生と出会える場です。

25年を超える実績と信頼

2000年から継続開催し、
延べ参加チームは500以上。
来場者は10万名を超え、多くのメディア
やライブ配信で注目されています。

協賛のメリット

●CSR活動:

防災・減災への貢献
技術教育への支援

●採用・交流:

ブース出展やチーム
交流会を通じ、学生と
直接対話が可能



レスキューロボットコンテスト2026 開催概要・ご協賛プラン

開催概要・スケジュール

2026年1月末
チーム応募締め切り

2026年6月
競技会予選(ビデオ審査)

2026年8月8・9日
競技会本選
神戸市しあわせの村

ご協賛プラン

特典	協賛S (100口～)	協賛A (60口～)	協賛B (30口～)	協賛C (10口～)
企業クレジット表記	特大	大	中	小
本選展示ブース出展	3コマ	2コマ	1コマ	—
チーム全員参加Slackでの発信	あり	あり	あり	なし
チーム交流会招待	6名	4名	2名	1名
本選競技間のCM放映	あり		—	

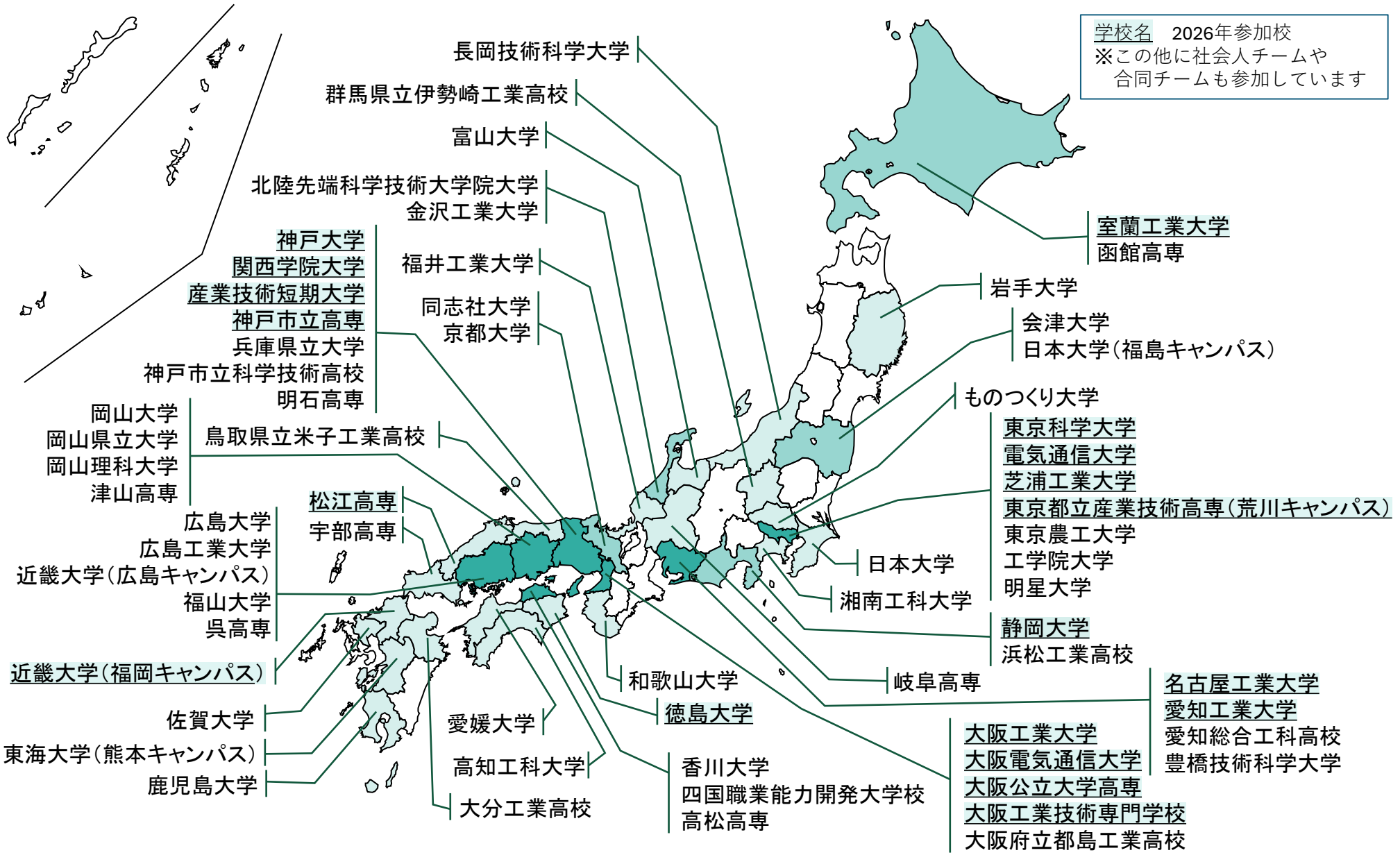
※1口1万円 賞品や機材の提供なども募集しております。詳細は「ご協賛のお願い」の冊子をご覧ください。

災害に強い世の中を作りたい、その想いを共有できるパートナーをお待ちしております。
レスコンの継続開催と発展のために格別のご支援をお願い申し上げます。

お申込期限(最終): 2026年3月末

お問い合わせ 一般社団法人レスキューロボットコンテスト
Email: corporation@rescue-robot-contest.org

レスコン参加学生の所属(2000~2026年)



レスキューロボットコンテストから社会に役立つロボットの開発へ

レスコンから巣立った技術者が消防用ロボットを実用化し、
競基弘賞を受賞しました！

NPO法人国際レスキューシステム研究機構 第二十一回競基弘賞技術業績賞

「高温環境に対応した監視点検用クローラ
ロボットARTHURの消防応用」

渡邊 彩夏(わたなべ あやか)さん



- 2015年 愛知工業大学工学部
機械学科卒業
- 2017年 愛知工業大学工学研究科
博士前期課程修了
- 2020年 愛知工業大学工学研究科
博士後期課程満期退学
サンリツオートメーション
株式会社入社

消防向けロボットや監視点検用ロボット(ARTHUR)
をはじめとしたクローラロボットの開発に従事

<https://www.rescuesystem.org/report/report21st/>

レスコンから巣立った渡邊さんが、消防用ロボットを実用化し、その実績が評価され、2026年1月10日に受賞しました。渡邊さんは、愛知工業大学の出身で、在学時にはレスコンに参加(2011~2014年、長湫ボーダーズ チーム)、その後2015~2021年には、レスコンの運営にも参画されました。また、奥川 雅之教授(前レスコン実行委員長)の研究室に所属し、大学院へ進学して、レスキューロボットの研究に取り組みました。現在は、サンリツオートメーション株式会社においてロボット開発に携わっておられます。大学時代から、継続して研究開発してきた消防用ロボットが、2025年12月に豊田市消防本部に導入されました。(全国初)

本受賞は、ご当人のこれまでの取り組みが評価された結果であり、大変喜ばしい出来事です。また、レスコンとしても、その目的の一つである人材育成の成果を示すものと考えています。

